

資料3

第1回 新みやしろ郷土かるた制作委員会

新みやしろ郷土かるた 題材例(案)

題材例とは、読み句作成の参考にしてもらうことを目的に例示するもの。

一掲載以外のものでも、かるたの制作目的及び作品規定(募集要項を参照)に合致しているものであれば使用可能。□

↓ 現かるた題材の「△」は、参考として掲載されていたもの。

大分類	小分類	名称	現かるた題材	現かるた採用	概要	
1	歴史・文化財	遺跡	前原遺跡	○	○	前原中学校校庭の整備に伴い発掘された埼玉県内でも最古級の縄文時代早期(約8千年前)の集落跡【町指定文化財】・縄文時代草創期微陸隆起線土石器・旧石器時代石器群 ●文化財案内板「前原遺跡」
2	歴史・文化財	遺跡	山崎山遺跡	○	○	県内最古級の古墳時代(4世紀後半)の鍛冶工房跡。当時の最先端技術であった鍛冶工房の存在は、畿内大和王権との関係や地理・交通的な重要性を示す貴重な資料。
3	歴史・文化財	遺跡	姫宮神社古墳群	○		町内で確認されている唯一の古墳(群)。道仏遺跡で発見された古墳時代の大規模集落跡との関係が推定されている。
4	歴史・文化財	遺跡	金原遺跡			はらっパーク宮代の整備に伴い発掘された縄文時代後期(約3,500年前)を中心とした大規模集落跡。 ●文化財案内板「金原遺跡」
5	歴史・文化財	遺跡	逆井遺跡			大宮台地でも発掘事例が少ない旧石器時代終末期(約13,000年前)の細石器と呼ばれる石器やその製作跡等 【町指定文化財】 ・第1号ブロック出土石器(細石器)
6	歴史・文化財	遺跡	道仏遺跡、道仏北遺跡			道仏土地区画整理事業等に伴い複数回に渡り発掘調査を実施。道仏北遺跡は、縄文時代前期初頭から中期初頭(約6000年前～約4700年前)の集落跡。道仏遺跡は、平成26年度までに、古墳時代中期後半から後期前半(5世紀中頃～6世紀中頃)の住居跡が約150軒が発見されている埼玉地区でも最大規模の集落跡。
7	歴史・文化財	神社	姫宮神社	○	○	旧百間村の鎮守。旧百間領の総鎮守。本殿は、江戸時代中期、正徳5年(1715年)頃に建築されたものと推定される。現町名の「宮代町」は、この神社の「宮」と旧須賀村の鎮守、身代神社の「代」から名付けられたもの。 ●ふるさと歩道案内板「姫宮神社」
8	歴史・文化財	文化財	五社神社	○		旧百間東村の鎮守。熊野三山、白山、山王の五社を一棟等間隔に合わせ祀ることから五社神社と称される。 【県指定文化財】・五社神社本殿【町指定文化財】・和鏡・多少庵句碑ほか ●ふるさと歩道案内板「五社神社」
9	歴史・文化財	神社	金原稻荷社		△	旧百間金谷原組の鎮守。祭神は、倉稻魂命。安永4年(1775年)に京都の伏見稻荷から分社を認められた文書が残されている。境内には、明治41年に金谷原前から移転したという金山大神社がある。
10	歴史・文化財	神社	蓮谷稻荷社			蓮谷村の鎮守。祭神は、倉稻魂命(うがのみたまのみこと)を祀る。
11	歴史・文化財	神社	道仏稻荷社			百間中島村の鎮守。祭神は、大巳貴命を祀る。現在の本殿は、江戸時代文化年間(1804年～1818年)に再建されたものと伝えられる。神社の前は杉戸宿御伝馬道、右側には久喜道が通る。
12	歴史・文化財	神社	若宮八幡宮			明治時代の百間中島村の村社。江戸時代の初め、高橋七郎兵衛という人が鎌倉の鶴岡八幡宮の分霊を屋敷内に祀り、その後農耕神として地域の人々からも信仰され、江戸時代の中頃に当地の鎮守として祀られたことがその起こりと伝えられている。●文化財案内板「若宮八幡宮」
13	歴史・文化財	神社	身代神社	○	○	旧須賀村の鎮守。創建は、鎌倉時代、仁治3年(1242年)。主祭神には、素戔鳴尊を祀る。町名の由来現町名の「宮代町」は、旧百間村の鎮守である姫宮神社の「宮」と身代神社の「代」から名付けられたもの。●文化財案内板「身代神社」
14	歴史・文化財	神社	東条原鷲宮神社		△	久米原村(東条原村)の鎮守。祭神は、天穂日命を祀る。町指定文化財「東条原獅子舞」が伝わっている。 ●文化財案内板「東条原鷲宮神社」
15	歴史・文化財	神社	西条原鷲宮神社	○		久米原村(西条原村)の鎮守。御成道沿いあり、江戸時代、天保14年(1843年)、第12代将軍の徳川家慶が、日光社参の途中に休憩した記録が残されている。 ●文化財案内板「西条原鷲宮神社・御成道」
16	歴史・文化財	神社	雷電神社		△	国納村の鎮守。群馬県板倉町の雷電神社を勧進したと伝えられる。 ●文化財案内板「雷電神社」
17	歴史・文化財	神社	宇宮神社		△	和戸村の鎮守。 ●文化財案内板「宇宮神社・本堂院跡」
18	歴史・文化財	神社	西光院	○		字東地内にある新義真言宗の寺。奈良時代の僧「行基」による草創と伝えられる町内屈指の古刹。平安時代作の阿弥陀三尊像(国指定重要文化財)のほか、中世文書、徳川家康画像など数多くの貴重資料が伝わっている。 【町指定文化財】・中世文書、徳川家康画像ほか ●ふるさと歩道案内板「西光院」
19	歴史・文化財	神社	宝生院	○	○	字中地内にある新義真言宗の寺。室町時代の創建と伝えられている。室町時代(応永21年、1414年)に作られた鰐口(わにぐち)は、現存の資料において、百間の地名が出てくる最古のもの。円空仏も伝わる。明治時代には、「進修学校(百間小学校)」の校舎として使われていた。 【町指定文化財】・鰐口・大イチョウ・円空仏 ●ふるさと歩道案内板「宝生院」
20	歴史・文化財	神社	医王院		△	字道仏地内にある新義真言宗の寺。西光院の末寺で、江戸時代の初めごろ、島村出羽守宗明が開基したと伝えられる。新四国八十八ヶ所霊場の八二番。

大分類	小分類	名称	現かる た題材	現かる た採用	概要
21	歴史・文化財	寺社	青林寺	△	字西原地内にある新義真言宗の寺。西光院の末寺。新四国八十八ヶ所霊場の八三番。明治時代～大正時代には、百間村役場が置かれていた。●ふるさと歩道案内板「青林寺」
22	歴史・文化財	寺社	遍照院	△	字金原地内にある新義真言宗の寺。西光院の末寺で、金谷山という。新四国八十八ヶ所霊場の八四番。●ふるさと歩道案内板「遍照院」
23	歴史・文化財	寺社	真蔵院	○	須賀地内にある新義真言宗の寺。鎌倉時代の創建と伝えられている。境内には、文化9年(1812年)に建立された町内唯一の仁王門があり、円空仏も伝わっている。門前には、鎌倉街道中道(奥州道)が通る。●文化財案内板「真蔵院・鎌倉街道」【関連題材】身代り薬師(伝承)
24	歴史・文化財	寺社	西方院	○	和戸本郷地内にある新義真言宗の寺。平安時代の創建と伝えられる。十一面観音立像は、室町時代の作で、かつては観音堂の本尊であった。25年に一度開帳される秘仏で、古くから子育て観音として知られている。【町指定文化財】・十一面観音像●文化財案内板「西方院」
25	歴史・文化財	寺社	妙本寺	△	東条原地内にある日蓮宗の寺。駿河国富士郡大石寺の末寺で、嘉元元年(1303年)日尊が開山したと伝えられる。
26	歴史・文化財	寺社	宝光寺	△	西条原にある曹洞宗の寺。白岡市興善寺の末寺。一説には、天文元年(1532年)創立とされる。明治6年に須賀小学校の前身である西條学校の校舎、明治22年～明治40年まで須賀村役場が置かれていた。●文化財案内板「宝光寺」
27	歴史・文化財	寺社	金剛寺	△	須賀にある曹洞宗の寺。白岡市興善寺の末寺。室町時代後期の創立と思われ、付近からは板碑と呼ばれる中世の塔婆も発見されている。●文化財案内板「金剛寺」
28	歴史・文化財	寺社	華蔵院	△	国納にある新義真言宗の寺。幸手市正福寺の末寺。新四国八十八ヶ所霊場の七二番。
29	歴史・文化財	寺社	重殿社	△	山崎地区の鎮守で、金山彦命を祭神として祀る。地元では「権現様」とも称されている。拝殿に見られる多数のぞうりは、足の病に対する信仰のために奉納されたもの。●文化財案内板「重殿社」
30	歴史・文化財	寺社	赤松浅間神社	△	江戸時代後半に富士信仰の神社として創建された。以前、赤松の大木が多数あったことから赤松浅間社と呼ばれている。毎年7月1日に、子供の成長を願う初山の行事が行われている。●ふるさと歩道案内板「浅間神社」
31	歴史・文化財	寺社	和戸浅間神社	△	創建の年代は明らかではないが、個人持ちであった社を、文化14年(1817年)に富士信仰の集団である富士講持ちの神社としたと伝えられている。明治32年の東武鉄道の敷設に伴い、現在の場所に移転している。毎年6月30日の祭礼は「ウラ浅間」と呼ばれ、子供の成長を願う初山の行事として多くの参詣者で賑わう。●文化財案内板「浅間神社」
32	歴史・文化財	寺社	弁天社	△	東武動物公園駅東口の弁天町にある祠。御神体である石塔は、寛政年間(1789年～1801年)に川島講中20人の人達によって造立されたもの。古利根川の水害から守ってもらうという祈りを込めて川の神様である弁天を祀ったものと思われる。
33	歴史・文化財	寺社	郷地蔵	△	東条原にある地蔵堂で本尊を郷地蔵といい、子育て地蔵とも称されている。7月24日の祭礼は、地蔵様の灯籠と呼ばれ、堂の前の道に絵を描いた灯籠が並べられ、堂内では、ロウソクがたくさん立てられる。この短くなったロウソクは半紙に包まれ、安産のお守りとして参拝者に配られる。
34	歴史・文化財	寺社	天神社	△	和戸の沖の山の鎮守で、菅原道真を祀る。和戸村内にあった修験の寺である本覚院の管理下にあった。
35	歴史・文化財	寺社	愛宕神社	△	和戸の本郷の鎮守で、西方院の管理下にあった。社殿は階段を上る、富士塚を連想させるような小高い場所に位置している。
36	歴史・文化財	寺社	地蔵院	△	字西原にある新義真言宗の寺。西光院の末寺。本尊には勝軍地蔵を祀る。平安時代末期から鎌倉時代初期の阿弥陀如来坐像が残されている。新四国八十八ヶ所霊場の第86番。●ふるさと歩道案内板「地蔵院」
37	歴史・文化財	寺社	正福坊	△	宮東地内にあり、西光院の二十六坊の一つである。寛文十一年(1671)の銘がある観音像(石碑)があり、江戸時代初期以降の寺院である事がわかる。
38	歴史・文化財	寺社	神外坊	△	字中地内にある新義真言宗の寺。本尊は不動明王。近くに西光院の西側の総門があったと言われている。
39	歴史・文化財	寺社	一庵坊	△	百間6丁目地内にある江戸時代の元禄年中に当地の名主であったの深井氏により、一庵法師の開山により建立されたもので、本尊は地蔵菩薩。●文化財案内板「一庵坊と庚申塔」
40	歴史・文化財	寺社	青蓮院	△	若宮地内にある新義真言宗の寺。西光院の末寺。江戸時代には寺子屋が置かれ、明治時代には、百間小学校の若宮青蓮院分教場として、大正6年(1917年)まで使用された。
41	歴史・文化財	寺社	長福寺	△	大字須賀字鹿沼地内にある曹洞宗の寺。白岡市の興善寺の末寺。本尊は聖観音。江戸時代初期の開山と伝えられる。
42	歴史・文化財	寺社	大聖院	△	東条原地内にある新義真言宗の寺。西光院の末寺。明治時代初期に廃寺となった後は、須賀小学校の前身である西條学校が置かれ、校舎の一部として使用されていた。新四国八十八ヶ所霊場の第70番。
43	歴史・文化財	文化財	西光院 阿弥陀三尊像	○	【国指定重要文化財】平安時代末期、安元2年(1176年)に造られた阿弥陀如来坐像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像からなる三尊像(阿弥陀三尊像)。全体的に穏やかでふくよかな丸みのある肉厚な形は、いわゆる定期様式(じょうちようようしき)と呼ばれる平安時代の特徴的な仏像。大正3年(1914年)に国の重要文化財(当時は国宝)に指定されている。

大分類	小分類	名称	現かる た題材	現かる た採用	概要
44	歴史・文化財	文化財	西光院 徳川家康画像		【町指定文化財】字東の西光院は、江戸時代徳川将軍家から50石の朱印地を拝領しており、6代将軍家宣、7代将軍家継、15代将軍慶喜を除く12代の朱印状が残っている。徳川家康画像は、もともと院内の東照宮の御神像だったもので、埼玉県でも数点しか確認されていない貴重なもの。菱紋が描かれた粟田口焼茶碗等とともに、3代将軍徳川家光時代の時代に拝領したものと推定されている。
45	歴史・文化財	文化財	円空仏	○	【町指定文化財】江戸時代の僧「円空」は、寛永9年(1632年)に美濃国(現在の岐阜県)に生まれ、生涯に十二万体の造仏を祈願し、仏像を刻みながら全国を巡り歩いたといわれており、現在までに確認されている円空仏は、4500体以上を数える。宮代町内では、和戸地区の御成街道沿いを中心に12体の円空仏が発見されている。
46	歴史・文化財	文化財	姫宮神社絵馬	○	【町指定文化財】姫宮神社には、江戸時代の中頃から近現代までに奉納された参詣や祈りの絵馬等44点が残されており、そのうち、江戸時代、文化12年(1815年)の「熊野詣(西国三十三ヶ所巡り)」の記念に奉納された、縦102cm、横151cmの大型の絵馬等3点が町指定文化財に指定されている。
47	歴史・文化財	文化財	西方院十一面観音像	○	【町指定文化財】西方院にある室町時代のもので推定される仏像。もともとは、近くの観音堂の本尊であったが、明治時代の初期に観音堂が廃寺になった時に西方院に移されたもの。現在の幸手市付近を拠点としていた豪族、幸手一色氏により寄進されたものと伝えられ、古くから子育て観音として人々の信仰を集めていた。
48	歴史・文化財	文化財	地藏院 阿弥陀如来坐像	○	【町指定文化財】西原の地藏院に伝えられていた仏像で、平安時代末期〜鎌倉時代初期に造られたものと推定されている。
49	歴史・文化財	文化財	川島庚申塔群	○	【町指定文化財】庚申塔(こうしんとう)は、平安時代からはじまり、江戸時代に庶民の間に広まった「庚申信仰」により建てられた石造物。町内では、110基余り確認されており、川島の一庵坊(いちあんぼう)の裏手の道路沿いには、町内で最も古い延宝4年(1676年)造立をはじめとした多数の庚申塔等が立ち並んでいる。 ●文化財案内板「一庵坊と庚申塔」
50	歴史・文化財	文化財	道しるべ	○	道の行先を示した道案内で、道端にある庚申塔や地藏などに刻まれることが多い。町内には、享保17年(1732年)〜明治8年(1875年)までの期間に造立された合計24基が確認されている。明治8年に建てられた学園台道しるべには、「東 東京 かすかへ(春日部)・・・」「西南 しのつ(篠津) しらをか(白岡)・・・」「西北 さって(幸手) くき(久喜)・・・」とある。●文化財案内板「学園台道しるべ」
51	歴史・文化財	文化財	板石塔婆	○	鎌倉時代から室町時代、戦国時代に流行した供養塔の一種。秩父産の緑泥片岩(りよくていへんがん)という平らな石を加工して造られたもので「青石塔婆」「板碑」とも呼ばれる。宮代町域では、これまでに約200基が確認されている。
52	歴史・文化財	文化財	東武鉄道煉瓦橋台	○	明治31年(1898年)に着工した東武鉄道の北千住〜久喜間の工事では、河川や用水の鉄道橋の橋台や橋脚に煉瓦が多く使われた。宮代町内では、姫宮落川や笠原沼落川、備前堀川等に煉瓦橋台が造られ、現在もその一部が使用され続けている。この煉瓦は、洪沢栄一が設立した日本煉瓦製造の深谷工場で製造されたもので、大正3年に建築された東京駅の煉瓦も同じ工場で製造されたものである。
53	歴史・文化財	歴史	和戸キリスト教会	○	埼玉県内で最初のキリスト教会として、明治11年(1878年)に誕生した。 ●文化財案内板「和戸キリスト教会」
54	歴史・文化財	歴史	鎌倉街道中道	○	鎌倉時代、幕府の御家人たちが鎌倉に馳せ参るため等に使われていた各地と鎌倉を結ぶ道筋。宮代町域を通過する中道(なかつみち)は、江戸時代の日光街道の成立まで奥州方面に通じる主要道。東条原から須賀の真藏院前を抜け、現在の万願寺橋付近で古利根川を渡り、下高野、幸手、古河方面に通じた。
55	歴史・文化財	歴史	日光御成道	○	徳川家康を祀った日光東照宮に将軍が参詣するために整備された道。将軍の日光社参は、第2代将軍秀忠を初めとして、全19回行われ、天保14年(1843年)第12代将軍家慶の日光社参の途中に、西条原篤宮神社で休憩した記録が残されている。
56	歴史・文化財	歴史	和戸駅 東武動物公園駅 姫宮駅	○	明治32年(1899年)8月、北千住〜久喜間が開業し、北千住・西新井・草加・越ヶ谷・粕壁・杉戸(現・東武動物公園駅)・久喜の7駅が設置された。同年12月には、和戸駅を含む4駅が開業された。姫宮駅は、昭和2年(1927年)に開設され、杉戸駅は、昭和56年の東武動物公園の開園に伴い東武動物公園駅に改称された。
57	歴史・文化財	歴史	万年堰(碑)	○	和戸・国納地区の水田の農業用水確保のために村の有志によって備前堀川に設けられた堰(せき)。明治35年(1902年)に煉瓦造りの堰が建設され、御影石と煉瓦を使用した近代的な構造の堰として長年親しまれたが、昭和54年(1979年)に現在の堰を建設する時に取り壊された。 ●文化財案内板「万年堰」
58	歴史・文化財	歴史	笠原沼	○	寛永2年(1625)に大河内金兵衛久綱により造成され、享保14年(1729)に井沢弥惣兵衛為永により新田開発された。沼の泥を掘り上げて短冊形に造られた田んぼは「掘上田(ホツツケ)」と呼ばれる。昭和50年代に東武動物公園や笠原小学校の造成のため大半が消滅したが、「新しい村」でその一部が復元整備されている。 ●文化財案内板「笠原沼」
59	歴史・文化財	人物	島村繁と遊養館	○	武道家、政治家。明治27年、字中の邸内に直心影流道場「遊養館(じゅんようかん)」を設け剣術を広めた。明治39年〜明治44年の亡くなるまで百間村長をつとめ、道路の修繕や百間小学校を現在の地に建設するなど、行政、教育に尽力した。その高徳を称える石碑が邸宅の門前にある。
60	歴史・文化財	人物	矢部造酒之丞と寧俊義塾	○	嘉永5年(1852年)〜大正12年(1923年)。福沢諭吉の門下生として学び、明治初年に西条原の自宅に漢学塾「寧俊義塾(ねいけんぎじゅく)」を開塾した。西条原の矢部家の門前に、酒造之丞が古希を迎えた大正10年(1921年)に門下生によって建立された高さ3m余り(台座含む)の記念碑がある。 ●文化財案内板「寧俊義塾跡」
61	歴史・文化財	人物	尾花善貞と菅聖公碑	○	?〜明治元年(1868年)。川島の私塾(寺子屋)の師匠。文政年中(1819年頃)から近郷の人々に学問を教えていた。かつて、川島の尾花家の庭先にあった「菅聖公」と記された石碑(現在は宮代町郷土資料館に移設)の裏面に、善貞の事績が記されている。
62	歴史・文化財	人物	島村鬼吉	○	江戸時代の俳人。天明5年(1785年)〜安政2年(1855年)。百間中村の名主で、通称「新右衛門」。松尾芭蕉の流れをくむ俳諧結社の「多少庵」を、江戸から百間村に移し、以降、埼玉県北東部の俳諧の中心地として明治末期まで代々引き継がれた。
63	歴史・文化財	人物	中野南枝	○	江戸時代の俳人。不明〜文政5年(1822年)。百間東村の人。松尾芭蕉の流れをくむ俳諧結社「多少庵」の第一世の鈴木秋瓜(すずきしゅうか)に俳句を学び、春暁亭連溪庵と号した。死後、同郷で親交の深かった島村鬼吉から多少庵第三世を追贈された。東の五社神社には、文政3年(1820年)に建立された句碑(町指定文化財)がある。

大分類	小分類	名称	現かる た題材	現かる た採用	概要
64	歴史・文化財	人物	日誉	○	弘治2年(1556年)ー寛永17年(1640年)。15歳の時、西光院の中興開山第1世の日雄(にちおう)の弟子となり、その後、徳川家康の信任を受け、京都の智積院(新義真言宗智山派総本山)の第3世(住職)として新義真言宗の基礎を築いた僧侶。
65	歴史・文化財	人物	鈴木雅樂助	○	生没年未詳。戦国時代末期に東地内にいた土豪。小田原の北条氏、岩槻の太田氏に仕えた。
66	歴史・文化財	人物	島村盛助	○	明治17年(1884年)ー昭和27年(1952年)。英文学者。作家。東京帝国大学英文科を卒業後、埼玉中学校(不動岡高校)等の教諭を経て、大正9年(1920年)から昭和19年(1944年)まで旧制山形高等学校(山形大学)の英語科教授となった。教鞭をとる傍ら、同僚の田中菊雄とともに昭和11年(1936年)4月に出版された岩波書店初の英和辞典を編集した。
67	歴史・文化財	人物	折原静汀	○	明治30年(1897年)ー昭和9年(1934年)。歌人。政治家。本名「源太郎」。百間村大字金谷原組に生まれ、大正5年(1916年)に前田夕暮の「白日社」に入社し『詩歌』に作品を発表した。大正6年には、短歌結社「嬰兒詩社」を設立し歌誌『嬰兒』を創刊する。昭和4年(1929年)、33歳で百間村村長となり行政手腕を發揮した。
68	歴史・文化財	人物	島村出羽宗明	○	?ー寛永元年(1624年)。道仏の医王院を造立し、百間中島村の開発にあたった。祖父である島村弾正左衛門高智は、室町幕府の管領細川高国の家臣で、父入道道明の時に東国に下り当地に移ったという。
69	歴史・文化財	人物	服部権太夫政信	△	江戸時代初期、百間西原組を領有していた旗本で、屋敷跡と思われる遺構が、県道の拡幅工事などで発見されている。
70	歴史・文化財	伝説・伝承	宮目姫の伝説	○	姫宮神社の創立に関する伝説。平安時代、桓武天皇の孫、宮目姫という美しい姫が下総国に行く途中、武蔵国百間の里、紅葉ヶ岡という見事な景色の場所で、突然の病に倒れ息を引き取ってしまい、この地に埋葬されました。その後、慈覚大師が故郷の下野国に帰る途中、姫の話を目にし、里人とともに祠を建てて供養し、姫宮明神と呼んだと伝えられています
71	歴史・文化財	伝説・伝承	真蔵院の身代り薬師	○	須賀地内の真蔵院の薬師如来像に関する伝説。昔、鎌倉時代、伊藤修理大夫光重という者が主君に逆らったという無実の罪のために首をはねられた。その光重の首を主君のいる鎌倉に運ぶ途中、須賀に来た時に首が急に重くなった。確かめてみると、首が薬師如来の首にすり替わっており、光重も傷一つ受けていなかった。この薬師如来を祀ったのが「身代り薬師」である。
72	歴史・文化財	伝説・伝承	八百比丘尼	○	中地内には、八百比丘尼を祀ったお堂があったといわれている。また、逆井にも八百比丘尼の伝説が残されている。八百比丘尼は、人魚の肉を食べて八百歳も長生きしたといわれている。
73	歴史・文化財	伝説・伝承	おいてけ堀	○	身代り神社の池は魚が多く、釣りをすると非常によく釣れた。しかし、釣りを終えて魚を持ち帰ろうとすると、池の中から「オイテケ、オイテケ」という声がするので、誰もが恐ろしくなり魚を置いて帰った。もし、魚を持ち帰って食べると、その人の家は落ちぶれてしまい村に居られなくなってしまうと言いつづけていたため、誰もその魚を食べる人はいなかった。
74	歴史・文化財	伝説・伝承	ぶっさり地蔵(宝光寺)	○	西条原の宝光寺にある地蔵尊「ぶっさり地蔵」に関する伝承。昔、近郷在住の若者が杉戸宿に遊びに行った帰りの夜道、宝光寺の近くまで来たときに、肩に若い娘がおぶさってきた。暗くて顔も見えなかったため、そのまま背負って歩き、我が家も近づいてきたので、どんな娘かと思い振り向いて見てみると、娘ではなく地蔵尊がおぶさっていた。慌てて問いただしてみると、宝光寺の地蔵尊と答えたという。
75	歴史・文化財	伝説・伝承	勝軍地蔵尊(地蔵院)	○	西原の地蔵院に祀られている「勝軍地蔵尊」に関する伝承。勝軍地蔵尊は馬にまたがっていて、火伏せの神様として信仰されている。あるとき、耕地内の民家が火事になったときに、白い馬が駆けめぐり火を消した。このとき勝軍地蔵尊も白馬にまたがり、よく見ると赤い汗をかいていたという。
76	歴史・文化財	伝説・伝承	東条原鷲宮神社の獅子舞	○	【町指定文化財】東条原の鷲宮神社に、江戸時代、延享2年(1745年)頃から伝えられている獅子舞。その由来は、江戸時代に新田開発が行われたが、古利根川が氾濫し、作物が取れず疫病も流行した。これは、新田開発により当地の神々の怒りを招いたものと思い、獅子舞を習い奉納したことが始まりと伝えられている。
77	歴史・文化財	伝説・伝承	西光院御影供	○	字東の西光院は、御影供寺(みえくでら)としても知られている。御影供とは、通称「みいく」とも言い、毎年4月21日、弘法大師空海の法要のために行われる行事。かつては、新嫁は花嫁姿でお参りし、境内には多くの露店が立ち並び参詣の人々で賑わった。
78	歴史・文化財	伝説・伝承	五社神社 みかん投げ	○	字東の五社神社で、毎年2月14日の夜に行われる節分(あるいは年越し)行事。この年の厄年の人達により奉納されたみかんを集まった人達に向かって投げるもので、このみかんを食べると風邪を引かないと言われている。50年ほど前から、昔はみかんではなく落花生を、さらに以前は、その前は豆を投げていたという。
79	歴史・文化財	伝説・伝承	浅間神社の初山	○	生まれて初めて迎える7月1日を初山(初山)と言い、近くの浅間神社に参る。7月1日は富士山の山開きの日であり、この日に富士山を模してつくられた浅間神社の築山(富士塚)に登りお参りすると丈夫な子に育つと言われている。町内では、山崎の赤松浅間社、和戸の浅間神社、辰新田の浅間神社などで初山行事が行われている。
80	歴史・文化財	伝説・伝承	おししさま	○	獅子と天狗が無病息災を願って、家々を回る年中行事。
81	歴史・文化財	その他	百間領	△	江戸時代、百間村を中心に、現在の宮代、白岡、久喜、春日部の一部にまたがる27か村の地域を百間領と呼ばれていた。
82	歴史・文化財	その他	須賀郷	△	鎌倉時代、寛喜2年(1230年)に下野国の守護であった小山朝政が嫡孫の小山長村に所領を譲り渡した際の譲状に「武蔵国 上須賀郷」とある。
83	歴史・文化財	その他	須賀・久米原の市	△	室町時代、延文6年(1361年)の「市場之祭文」という市を開く際に修験者が神社で読み上げた祭文に、久米原市と須賀市の名称が確認できる。いずれも鎌倉街道沿いの、久米原市は東条原鷲宮神社付近、須賀市は真蔵院付近にあったものと思われる。
84	歴史・文化財	その他	源太山	△	山崎地内の台地上に位置し、松永源太左衛門の館があったと伝えられている。
85	歴史・文化財	その他	スキップ広場の蒸気機関車(SL40号)	○	役場庁舎の横に展示されている蒸気機関車。明治31年(1899年)にイギリスで製造され、大正11年(1922年)から昭和41年(1966年)までの44年間、東武鉄道で活躍していた。その後、縁あって平成6年(1994年)にこの広場に展示されることとなった。
86	自然・地理	河川	古利根川	○	かつて利根川の本流であり、武蔵国と下総国とを分けた川。また、鎌倉・室町時代、須賀付近の流れを「高野川(たかのがわ)」とも言った。

大分類	小分類	名称	現かる た題材	現かる た活用	概要
87	自然・地理	河川	姫宮落川	○	江戸時代の初め、笠原沼周辺の水田を開発した時に造られたもの。
88	自然・地理	河川	隼人堀川	○	白岡市の寺塚から小久喜、上野田、下野田、岡泉、太田新井を通過して宮代町に入り、春日部市のほぼ境を流れ、川端で大落古利根川に合流する。
89	自然・地理	河川	備前堀川	○	加須市の外田谷・久喜市の所久喜・江面・太田袋を通り、国納そして和戸で古利根川と合流する。江戸時代の初め伊奈備前守によって掘削されたので備前堀といわれている。
90	自然・地理	河川	笠原沼落川	○	江戸時代、笠原沼の開発と合わせて作られた落とし堀。タナゴやフナなどの魚が多い。
91	自然・地理	自然	宝生院の大イチョウ	○	【町指定文化財】字中の宝生院の境内にある大木。樹齢推定500年余り。
92	自然・地理	自然	姫宮落川の桜	○	姫宮落川の土手の桜並木は、戦後青年団の手によって植えられたと言われている。笠原小学校前の桜並木の下では、毎年春に、桜市が開催されている。
93	自然・地理	自然	山崎山雑木林	○	平成12年にさいたま緑のトラスト保全5号地に指定。大宮台地と低地が接する位置にある、コナラ・クヌギ・シデを中心とする雑木林。約1.4haのエリアには、遊歩道が整備され、雑木林を構成する様々な植物、野鳥、昆虫等を観察することができる。地元の自然保護団体等による保全活動や自然観察会等が行われている。
94	まちづくり	行事	町民まつり	○	毎年8月下旬に開催される。進修館を中心に、駅前通りでの流し踊り、神輿の渡御等が行われる。道路沿いには夜店も出て、多くの町民で賑わう。
95	まちづくり	行事	町民体育祭	△	毎年10月、総合運動公園を会場に開催されている。昭和48年(1973年)の第1回大会から40年以上続く町民のスポーツの祭典。玉入れなどの地区ごとに参加する「地区対抗種目」と買い物競争などの「一般種目」がある。
96	まちづくり	行事	町民文化祭	△	11月の文化の日前後の数日間、コミュニティセンター進修館を会場に開催されている。昭和54年の第1回開催以来、30年以上続いている。絵画や書道、彫刻などの作品展示をはじめ、歌や踊りなどの舞台発表にも多くの町民が参加し、町民の文化活動の発表と交流の場として毎年賑わいを見せている。
97	まちづくり	行事	桜市	○	毎年、桜の咲く頃に、笠原小学校前の姫宮落川の桜並木で開催されるイベント。平成7年4月に農のあるまちづくりの取り組みの一環としてスタートした。
98	まちづくり	行事	クリーン宮代	△	郷土に残されている豊かな自然を守り、美しく住みよい環境を作ることを目的に、宮代町コミュニティ協議会が毎年5月末に実施している町内一斉美化運動。
99	まちづくり	行事	みやしろイルミネーション	○	2005年にスタートした、手づくりのイルミネーションイベント。進修館周辺の広場や道路などに、様々な色や形の電球を飾り付け、冬の町なみを明るく、あたたかく照らし出している。イベントを運営する実行委員会は、大学生などの若者を中心とするメンバーが活躍している。
100	まちづくり	行事	キャンドルナイト	○	NPO法人「じりつ」が主催し、進修館四季の丘で開催される冬の風物詩イベント。約3千個の手づくりのろうそくをともし、一晩限りの幻想的な風景をつくり出している。人と人のつながりの大切さを考えるきっかけとなることを願い、2005年から続けられている。
101	まちづくり	その他	宮代町の名称	○	昭和30年7月、百間村と須賀村が合併してできた。町名はそれぞれの鎮守である姫宮神社の「宮」と身代神社の「代」をとって名付けられた。
102	まちづくり	その他	町の木 シイガシ	○	町の木。椎の木の別称で、ブナ科の常緑高木です。秋にはたくさんのドングリの実をつける。昭和60年に町制施行30周年を記念して制定された。
103	まちづくり	その他	町の花 ハクモクレン	○	町の花。モクレン科の落葉高木。白く美しい花は、清浄で高貴なイメージがある。昭和60年に町制施行30周年を記念して制定された。
104	まちづくり	その他	宮代の歌	○	昭和60年、町制施行30周年を記念しつくられた町の公式歌。自然豊かな町の風景が、色彩と情緒あふれる歌詞として綴られ、明るく優しい雰囲気メロディーに仕上がっている。町民文化祭開会式など多くの場面で演奏されている。
105	まちづくり	その他	宮代音頭	○	昭和60年、町制施行30周年記念としてつくられた。曲の中では、演歌歌手の山本譲二さんの歌声にのせて、3つの鉄道駅や進修館、巨峰など町のシンボルが数多く登場する。町民まつりや学校の運動会など、様々な行事で踊られ、世代を問わず、多くの町民から親しまれている。
106	まちづくり	その他	新宮代の歌	○	平成27年、町制施行60周年を記念しつくられた町の公式歌。500人を超える町民のアンケートをもとに、宮代在住の音楽家、戸田泰宏さんが中心となって誕生した。「町の未来に、夢、希望、元気を与える歌」が曲のコンセプト。公式音源には、町の小中学生からなる少年少女コーラス隊が出演している。
107	まちづくり	その他	農のあるまちづくり	○	宮代町に住むすべての人が、農業(人と自然が互いに恵みを与えあう関係)の中で、守られ、育てられる自然から、おいしい食べ物や心なごむ美しい風景、澄んだ空気など、たくさんの恵みを受けていることに注目し、これを町の特徴として大切に、活かしながら宮代町を発展させていこう、というまちづくりの考え方。平成8年ころから展開され、新しい村や桜市など、様々な施設やイベントが誕生するきっかけともなっている。
108	産業	特産品	巨峰(ぶどう)	○	昭和34年から町内各所で生産がはじまった町を代表する特産品。秋の収穫の最盛期には、町外からもたくさんのファンが宮代の巨峰を求めて訪れる。巨峰ワインをはじめ、さまざまな食品に加工されたり、実の色が町のイメージカラーとして定着するなど、単なる農産物の枠を超えて、宮代町のシンボリックな存在となっている。
109	産業	特産品	お米	△	米はもともと収穫量の多い町の農産物。中でも、宮代町稲作研究会が生産するコシヒカリ「みやしろっ子」は、安心・安全でおいしいお米をと、無化学肥料、減農薬栽培にこだわって作られており、人気を博している。

大分類	小分類	名称	現かる た題材	現かる た活用	概要
110	施設	町施設	○	○	宮代町の自然豊かな風景に溶け込むデザインをコンセプトに、象設計集団が設計を担当。昭和55年に完成。習いごと、コンサート、演劇、遊び場など、町民の様々な活動の中心地として使われている。町のシンボル建築物。建物前には、芝生広場「四季の丘」が整備され、地域住民の憩いの場、活動場所となっている。
111	施設	町施設	○	○	町の北部にある総合運動施設。体育館、室内温水プール、テニスコート、野球場などある。愛称のぐるぐるは、泳ぐ、投げる、走ると総合運動公園をイメージした3つの言葉から一文字を取ってつけられ、その愛称のとおり町民野球大会を始めとした各種大会、幼児から高齢者までの水泳教室やテニススクールなどで賑わっている。
112	施設	町施設	○	○	郷土資料館では、1年を通じて企画展や特別展、講座、体験学習教室などを行っている。野外には縄文時代の復元住居や町指定文化財の旧進修館、江戸時代の移築民家加藤家住宅などがあり、民具などの寄贈資料の展示のほか、体験学習の場としても活用され、宮代町の歴史を学ぶことができる。また、旧斎藤家屋敷林をはじめ、西原自然の森が織りなす四季の風景が楽しめる。
113	施設	町施設	○	○	平成6年1月開館。オープン当初は、町村レベルで東日本一の規模を誇った。現在でも、町民1人当たりの蔵書数、貸出冊数ともに、県内市町村でトップクラスにある。職員だけではなく40人を超えるボランティアが様々な行事や図書の配架などに協力していることも特長。
114	施設	町施設		○	福祉作業所「ひまわりの家・すだちの家」は、心身に障がいを持った人たちが自立することをめざして生活指導・職業訓練を行っている施設。平成2年開所。
115	施設	町施設	○		東小学校の木造校舎、須賀小学校のどんぐりピアノ、 遺跡の上に立つ百間小学校、瓦ぶき屋根のユニークなデザインの笠原小学校など ●文化財案内板「須賀小学校」
116	施設	町施設			平成16年に開催された彩の国まごころ国体アーチェリー競技会場として整備された。国体開催時には全国からたくさんの選手が集い4日間の熱戦が繰り広げられた。また、平成20年にはインターハイも開催され、埼玉県のアーチェリー場のメッカとなっている。3万平方メートルの広大な芝生広場は、グラウンドゴルフ、サッカーなどで利用され町民のスポーツと憩いの広場となっている。
117	施設	町施設			農のあるまちづくりの推進拠点として、平成13年度にオープン。地元産の新鮮野菜や特産品を販売する「森の市場結」のほか、市民農園、ハーブ園のほか、江戸時代の水田開発を今に伝える「掘り上げ田(ほっつけ)」も再現され、地元小学校の稲作体験等に活用されている。
118	施設	町施設			医療、福祉、子育てのための機能をもつ、複合施設。町の医療と福祉の中心地として、人々の健康と子ども達の健やかな成長を支えている。平成15年オープン。
119	施設	町施設			平成17年完成。人と自然にやさしい庁舎、誰もが使いやすい庁舎、を基本コンセプトに設計され、埼玉県産の木材を豊富に活用した全国的にも珍しい木造庁舎である。
120	施設	町施設			笠原小学校の中に設置された、福祉交流センター。地域住民に開放され、囲碁・将棋、体操、コンサートなど、様々な活動や催しに活用され、高齢者を中心に、多くの住民に親しまれている。平成12年オープン。
121	施設	町施設			役場庁舎横のスキップ広場にある公衆トイレ。デザイン、サイン(案内表示)、名称をすべて公募してつくられた町民の心と知恵が集まったメイドイン宮代トイレ。国際トイレシンポジウム'96で「グッド・トイレ10」に選出された。
122	施設	町施設			河川沿いなどに整備された遊歩道で、コース上にはベンチや健康器具が設置されている。古利根川沿いには、ぐるる宮代～文殊院橋の「桜堤コース」、須賀地区の「菜の花コース」、百間6丁目付近～川端の「水辺ふれあいコース」がある。隼人堀川沿いには、「健康リフレッシュコース」、用水路沿いの田園景観を楽しむことができる「緑ふれあいコース」の合計4つのコースがある。
123	施設	町施設			新しい村の整備の一環として造られた遊歩道。内郷用水に沿って、新しい村と西原自然の森を結び、途中には見晴台や休憩場所も設けられている。四季折々の田園風景を楽しみながら散策を楽しむことができる。
124	まちづくり	その他			埼玉県の宮代町商工会青年部から生まれた宮代町のローカルヒーロー。子供たちに夢を運び、花で彩られる美しいまちづくりの実現のために活動している。平成22年8月「埼玉県ローカルヒーローズ」結成平成26年4月「宮代町応援ヒーロー」に任命
125	施設	その他	○	○	「にっこうだい」の名で町民にも広く親しまれ、機械や建築、コンピュータ分野などのエンジニアを育成する大学。昭和42年開校。宮代町のまちづくりでも様々なところで協力しており、大学生たちの若い力が、町の活気を支えている。250もの工作機械を、動態保存(実際に動かせる状態)している工業技術博物館もあり、定期的に実施されるSLの模擬運転は名物になっている。【国登録有形文化財】工業技術資料(178点)
126	施設	その他	○	○	宮代町を代表するレジャー施設。動物園だけでなく、遊園地も併設され、年間100万人以上が訪れる。花火やイルミネーションなど、四季を通じて様々なイベントが行われ、訪れる人を笑顔にしている。昭和56年オープン。

参考・引用文献(資料)

- 宮代町教育委員会 『宮代町史 通史編』
- 宮代町教育委員会 『宮代町史 民俗編』
- 宮代町教育委員会 『みやしろ風土記 増補』
- 宮代町教育委員会 『平成21年度第1回企画展 みやしろ歩け歩け!～写真でめぐる宮代の歴史と文化財～』
- 宮代町教育委員会 『宮代町の中世遺物』
- 宮代町教育委員会 みやしろ郷土かるた『応募対象題材 解説書』(平成6年)
- 宮代町教育委員会 宮代町文化財案内板 みやしろのへ